日光市で活躍している人、サークルを紹介します！

サークル Circle クローズアップ 日・光・人 People 人

足尾・スウィング・ジャズ・アソシエーション（ＡＳＡ）

活動内容　ジャズオーケストラ
練習日　毎週土曜日（午後7時30分～9時30分）
練習場所　皇海荘地域交流ホームしらかば苑
会員数　16名
代表・問い合わせ先　佐々木（ささき）　正直（まさなお）
☎93-2522

足尾・スウィング・ジャズ・アソシエーション（以下、ＡＳＡ）は、昭和58年ごろ、足尾商工会主催のダンスパーティーで、「演奏しませんか」との誘いに集まった5人で発足しました。正式にＡＳＡとなってから今年で20年。現在は20歳代から60歳代まで、幅広いメンバーで活動しています。

代表の佐々木さんにＡＳＡの特徴を伺うと、「メンバーの大半は素人で、ＡＳＡに入ってから音楽を始めた人がたくさんいます。みんなで集まって、楽しく演奏できるのが一番で、『下手でもいい、楽しければ』という考えで活動しています」とのこと。さらにメンバーの方は、「楽曲にはこだわりません。演歌からジャズまで、どんな曲でも演奏します」と話してくれました。

ＡＳＡでは、年1回、定期ファミリーコンサートを開いています。今年は11月29日（土）の午後6時から銅ふれあい館で開催します。「今回は20周年記念として、過去に演奏した曲の中から選曲しました。曲に演奏が追いつかず、選曲に苦労しましたが、皆さんに楽しんで聴いていただけるように練習しています。また、ＡＳＡのコンサートは、私たちよりゲストがメインのようなもので、今回もゲストが多数出演します。ジャンルを問わず、良いゲストを呼ぶことだけを考えていますので、来た人に楽しんで帰ってもらえればと思っています。なお、メンバーも募集しています。楽器を持ったことのない方でも、音楽に興味のある方なら大歓迎です」と佐々木さんは話してくれました。

さらに今年は、わたらせ渓谷鐵道沿線各駅イルミネーションの点灯式（31ページ参照）でも演奏するそうです。皆さんも、冬の幻想的な雰囲気の中、ＡＳＡのジャズを聴いてみませんか。

今年4月、通洞駅祭での演奏の様子。

和田　禮子（れいこ）さん　今市 在住

作家の深田久弥（ふかだきゅうや）さんが著書で選定した「日本百名山」を約50年かけて完登した和田禮子さんを紹介します。

和田さんの登山との出会いは、20代のときに職場のグループで男体山へ登拝したことがきっかけだったそうです。その後も登山を続けましたが、結婚や子育てのため登山から離れていました。50代のときにある雑誌に登山の参加者募集の記事を見つけ、「また登ってみたい」との思いから申し込み、登山を再開しました。

登山の魅力を「山は誰でも平等に迎えてくれます。そして自然の美しさを無償で提供してくれます」と話す和田さん。登山のため、体力づくりはもちろんのこと、カルシウムを多く取ったり、膝（ひざ）へ負担を掛けないために体重をコントロールしたりと、普段から気を使っているそうです。

百名山を意識したのは平成18年1月。今まで登った山を整理したら、百名山のうち81の山に登っていることに気付いてからです。残りが19ならば登ってみようと決意し、今年の夏、最後に残った南アルプスの間ノ岳（あいのだけ）を登り日本百名山を完登しました。和田さんにそのときの感想を伺うと「頂上に立ったとき『やったー、うれしい』と心の底から思いました。いろいろな苦労がありましたが、自分の目標が達成できてとてもよかったです。また、応援してくれた仲間や家族に心から感謝しています」と答えてくれました。

最後に、今後の目標について「体力が続く限り登山は続けたいです。また、ほかの趣味にも力を入れていきたいですね」と話してくれた和田さん。これからも持ち前の向上心でいろいろなことに挑戦していってください。

7月20日、日本百名山の完登を仲間と喜ぶ和田さん。

募集しています！

紹介したい方やサークルの情報をお寄せください。
※掲載にふさわしくない活動内容が含まれている場合、紹介をお断りすることがあります。
また、皆さんからの短歌・俳句・川柳の投稿作品もお待ちしています。氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記して、応募してください。
連絡先及びくわしくは
秘書広報課　広報広聴係
☎（21）5135・FAX（21）5109

市民文芸

川柳　選者　山本都留米（つるべ）

腹の中見透かされてる言葉尻　石川みかん
一言が勇気がなくて泣き寝入り　倉沢美江子
幼な子がやっと覚えた字が踊る　小島幸子
秋を読む書に足止める女文字　櫻沢あき子
太鼓腹すまなさそうにへそがあり　湯沢和
繁華街シャッター通りになる不況　選者吟

俳句　選者　伊藤清

秋明菊雨に艶ます石灯篭　渡辺ミチ子
木犀の香に導かる曲り角　福田美代子
影ひきて秋の陽射しは虚しかり　星野恒志
秋天へアマランサスの彩続く　鈴木キヌ子
秋の気の漲（みなぎ）る大地豊かなり　斉藤愛華
やわらかく呼吸しており黒揚羽　酒井智恵子

短歌　選者　阿久津仲一

炎熱の光りをはじき噴水は愛惜しみなく夏を輝く　関根眞佐子
靖国よ千鳥ヶ渕よと言われつつ比島に果てし兄の魂いづこ　大出喜代
今日からの歩む八十路（やそじ）は如何なるや蝉の合唱思いをかき消す　根立郷美
梶の葉を芋の葉に替へ点前する夏逝く宵に虫の音きくも　八木澤ヤイ子
日光は文化歴史に育まれ世界に誇る俺（おら）がふる里　佐々木清市
山行の山のホテルの静けさに親しき仲間と温泉（ゆくつろ）に寛ぐも　大森トミ子